

第42号 平成 3 年 8 月 20 日

発行者 群馬県山岳連盟
〒371 前橋市大手町1丁目1-1
群馬県庁観光課内
TEL (0272) 23-1111 委員会
編集 群馬岳連編集 委員 会
責任者 羽野 順一
印刷所 森田印刷
<定価 1部 100円>

岳連創立五十周年を迎えて



会長 星野 光

群馬県山岳連盟が創立五十周年を迎え、半世紀に及ぶその記念誌が発刊されましたことは誠にめでたいかぎりであります。

その他にこれを記念した記念祝賀会が七月十四日群馬建設会館に於いて日本山岳協会会長齊藤一男様をはじめ、各方面から大勢の御客様をお迎えして盛大に行なわれましたことは私にとりましても大きな喜びであります。

一九九一年は未年であります。十二支では木の葉が生い茂り、枝の先が見えなくなること、換言すれば、成生の限界と通連しの不明確なことを意味していると思われしています。今の世界情勢はこれを暗示するかのよう、湾岸戦争を中心に大きく揺れ動き、不安と混乱のたゞの情勢であります。

国内では自然と人間との共存をテーマとした国際花と緑の博覧会が開かれたり、国民全体がゆとりへの志向が示され、自然に対する関心が大きく見直されるようになりました。

こんな時、大自然の猛威をまぎへてと見せつけたのが雲仙岳や、フイリンのピナツボ山の大噴火でありました。私達が何気なく暮らしている平凡な生活がいかに大切で幸せなことを改めて感じさせてくれました。

話は五十周年になりますが、私達の山岳連盟五十周年記念誌が出来ましたが、これをまとめるにあたり多くの会員や先輩の方々から貴重な資料をいただいたり、話を聞いたりと大変な苦勞をおかけいたしました。各地区山岳会や個人ではそれぞれの計画で実績をあげているが、年代的にはどうであったか、そのつながりがどうであったのかという問題はあったが、何とか皆さんの協力で五十年のまとめが出来たのであります。

私が浜名会長の後任として会長を御受けしたその年に冬期アンナブルナの登山計画があり、山についてはまったくの素人の私は行ける所迄ということで現地に同行し、登山のイロハから経験することが出た。物資の調達、シエルバとポーターの集め方とその接し方、ポーターのスト等、すべてが駆け引きで順調にいかないことも解り、第一回は悪天候のために隊員の

やシエルバの怪我等で失敗し、三年後の一九八七年に再度の挑戦で前回の経験を活かして見事四名の隊員が世界で初のアンナブル南壁の冬期登頂を成し遂げたのであります。しかし下山途中小林俊之、齊藤安平の両君が犠牲者となってしまい誠に残念でならない。そして一九八九年の二月には残った二人、山田昇、三枝照雄の両君迄が小松幸三君と共に冬のマッキンリーに逝ってしまった。

私が行ったアンナブルの登頂力をもつて相手に立ち向うかまたは、記録への挑戦であり、そこには死の意識は無いのである。しかし登山は常にその挑戦が厳しければ、厳しい程死の影が浮かぶのである。死を意識した挑戦がスポーツと言えるだろうか。疑問に思う。だが次から次に若者が新しい山へ新しいルートを求めて挑戦して行く、これはスポーツを越えた、スポーツには無い何かがある。その何かを求めて、私達は群馬岳連

五十周年の記念事業として今度最も困難と厳しいとされる「冬期サガルマータ南西壁」の挑戦を決めたのです。準備は着々と進んでいます。先輩の残してくれたこの立派な組織を率けてこの事業を成功させて世界の登山史に群馬岳連の名を記したいです。

創立五十周年記念祝賀会

群馬岳連盟創立五十周年記念式典と祝賀会が去る七月十四日(日)午後一時より群馬建設会館に於いて、県内岳連加盟の各山岳会々員、県外岳連代表者及び日山協を中心とした関係諸団体の方々二五〇名が出席し、盛大に開催されました。当日式典では高体連委員長の村上泰賢さんの司会ではじまり、最初に田中成幸理事長の開会にあたり、祝意を述べ、次いで群馬岳連を代表して星野光会長が挨拶に立ち、岳連五十年の歩みと五十周年記念誌の発行について、記念山行としてのサガルマータ(エベレスト)南西壁への遠征計画及び式典出席者に対する御礼を述べ、次に群馬岳連顧問で参議院議員の中曽根弘文氏より心温まる挨拶の後、創立五十周年を記念して岳連創立より功労のあった我々の大先輩の先生方を始め、三十年以上岳連の中心となり役員を続けていた方々及び、五十年の歴史の中で岳連に対し功績のあった十五名の方々に功労者として表彰があり、つづいて群馬県商

工労働部観光課、株式会社上毛新聞社に対し感謝状が贈呈された。これを受けて、表彰者を代表して高崎山岳会の吉田元氏から感激の謝辞がある。

来賓挨拶では最初に県体協を代表して県スポーツ振興事業団の日野敬三専務理事、日山協より齊藤一男会長、上毛新聞社を代表して柳田芳武総務局長から祝辞があり、祝意に入る。

祝賀会場では日山協齊藤一男会長、表彰者を代表して前橋山岳会の川浦三四郎氏、星野光会長の三氏に依る鏡割りでスタート、鎌田久前日山協会長が乾杯の音頭をとる。和気あいあい祝賀が盛り上がる中で各県の岳連代表者から祝詞をいただき、県観光課長の吉田茂作氏による万歳三唱が行なわれ、最後に石井課一朗岳連副会長の閉会の挨拶があつて無事に式典の閉会を終了する。

表彰者 (順不同)

創立五十周年記念表彰者
落合 正 高崎山岳会
川浦三四郎 前橋山岳会
田村朝之助 〃
中島喜代志 水上山岳会
中島 福三 渋川岳想会
吉田 元 高崎山岳会
池沢 常平 群馬青空山岳会
石井謙一郎 伊勢崎山岳会
川辺 柳一 境町山の会
小林 三雄 松井田山岳会
須田 淑人 沼田山岳会
富山 真 太田山岳会
西山 年秋 沼田山岳会
布施 正昭 高体連登山部
吉田 茂作 県観光課長

感謝状贈呈者
群馬県商工労働部観光課
株式会社上毛新聞社



五十周年記念誌 発行される

祝賀会開催日に念願の岳連五十年誌が多くの岳連会員の協力と編集に携わった田中理事長をはじめとする編集担当者の努力に依り発行することが出来た。

祝賀会に出席された方々には全員に配布され、御存じかと思いますが内容について簡単にふれて見ます。

上製本カラーグラビア八頁入りの全体三〇〇ページの立派な本で、中味もバラエティーに富んでいて、創立の項と題した座談会、各部会の歴史、利根水源調査隊の記録、県境リレー徒走、あかぎ国体、山田昇記念、研究及び資料、県内初登攀記録、岳連加盟団体の紹介、群馬岳連会員のヒマラヤ登山その他の海外登山と題した八木原海外研委員長の記事は海外登山のすべてを克明に記録している。他にモノクロ写真が多数あり、特に昭和初期のめずらしい記録、資料に見るべきものがある。

印刷は上毛新聞社にお願いして二千部作成しました。

県内岳連会員の皆様には記念誌の中に自分の名前が出ている方はもちろんのこと、何らかの関連がある方々もあると思います。出来れば岳連会員全員に一部づつ購入していただき、岳連の歴史をふり返り、その伝統を若い人達に受け継いで今後の発展に役立つことが出来れば記念誌を発行した本当の意味があると思います。 記野羽

日・印合同カンチュンジュンガ 登山隊登頂報告

副隊長 名 塚 秀 二



世界第三位の高峰カンチュン

ユンガ(八五八六米)、インド、

ネパールの国境に有り、一八五二

年、インド側当局が「ピークⅩ

という記号で呼んでいた。サガル

マータ(エベレスト)が発見され

るまで世界で一番高い山と考えら

れていた。戦前幾度かカンチへの

登山が行なわれたのだが、本格的

な登山隊を組織して行なわれたの

は、一九二九年、パウエル・パウ

ア一隊長率いるドイツ隊である。ル

ートは、今回私達が行った北東支

稜、しかし、この時は七二〇米

までルートを開いたのだが、その

後天候が大きく崩れだし、パウ

ア一隊長はやむなく退却命令を出

した。荒天候下の極めて危険で困難

な退却であったが、全員無事BCへ

下山する事が出来た。この勇気あ

る退却は後に、全世界の登山界か

ら感動的な賞讃を浴びたと言われ

ている。

そして、パウエル・パウア一は、

チベット・ポーター・ポリス

二年後の一九三一年に再びこの北東支稜へ帰ってくるが、五九〇〇米付近で、隊員とシエルバがアツパーゼム氷河へ墮落死してしまっ

しかし、二人の遺体を収容し埋葬

が終ると、登山をあきらめるとな

く登攀を続行した。七六八〇米ま

でルートを伸ばしたが、その先雪崩

等の危険が極めて大きく、またも

や勇気ある退却を決断せざるを得

なくなってしまう。その後、こ

の北東支稜は一九七七年のインド

陸軍隊が入るまで待つことになる。

この七七年のインド陸軍隊も壮

絶な戦いを行なっている。BCへ三

月十七日に、そしてルート核心部

である約五七〇〇〜六六〇〇まで

に約三七日間を費やし、途中登れ

なかった氷壁に対しては、トンネ

ルを掘って上部へ脱け出るとい

うことまでやって、一名の隊員を失

いながらも、五月三二日に隊員一

名、シエルバ一名を頂上へ送りこ

んで第一登を果した。

八七年には再びインド陸軍によ

って登頂されている。

H A J (日本ヒマラヤ協会)は

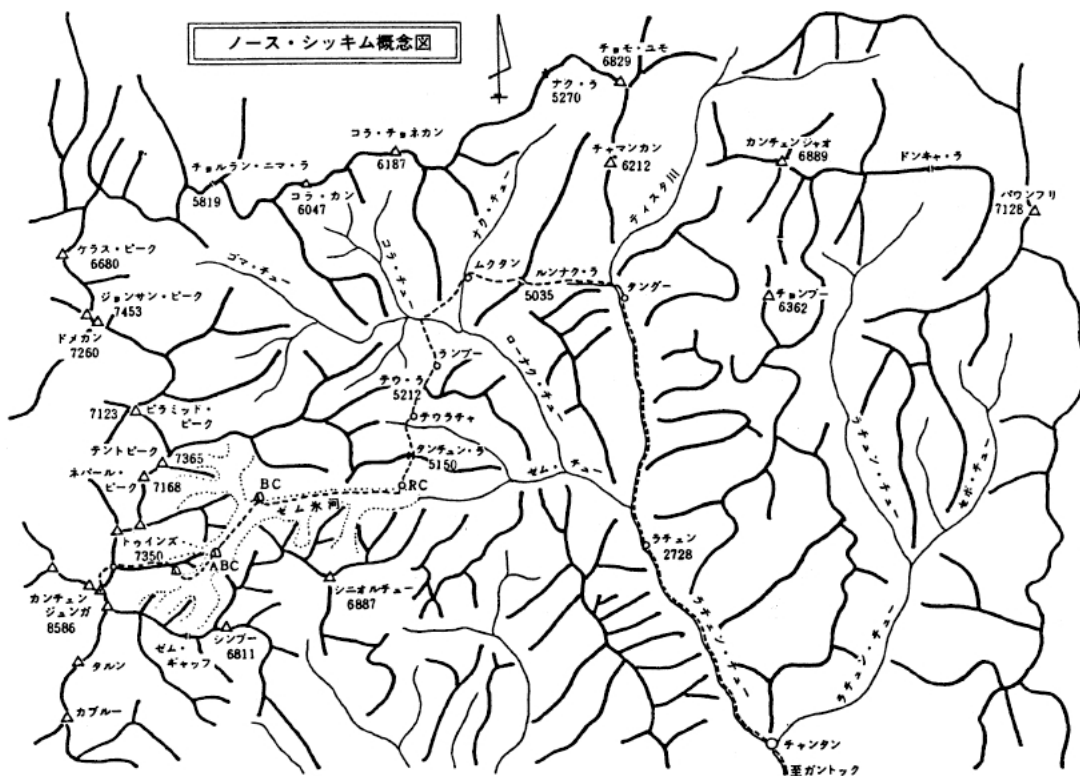
七〇年代後半からしきりにシッキ

ム側からの登山を申請していたが

ようやく昨年、I T B P (インド

チベット・ポーター・ポリス)か

ノース・シッキム概念図



らのアプローチによって、合同隊であれば、この条件付きで入山が許可された。

私はチヨゴリ(K)横浜山岳協会隊の遠征が終って、帰国してすぐにこの話を聞いたのだが、最初迷っていたが、九一年〜九二年の群馬岳連の第五次ヒマラヤ遠征となる冬期サガルマータ南西壁の為に同行して経験を積むことが大切と考え参加することにした。また、群馬のヒマラヤを目指す若い連中も同様で、ヒマラヤを経験させる為に私に他に五人のメンバーを参加させた。

江塚進介(伊勢崎山岳会)、佐藤光由(群馬ミヤマ山岳会)、後藤文明(境町山の会)、星野龍史(群馬ミヤマ山岳会)、秋山剛(群馬ミヤマ山岳会)、そして今回インド側より女性一名も含めてほしいとの要請があり、九一年〜九二年の冬期サガルマータ南西壁へ参加希望を出している木村文江(桐生山岳会)を連れて行くこととしたが、木村は残念なことに九〇年秋のタウラギリ峰で手に凍傷を負ってしまった、カンチへはあきらめざるをえなくなっていました。

私は九〇〜九一年の年末年始を今年の「群馬山岳連盟五〇周年事業」の一つとして、ネパールヒマラヤへのトレッキングへ同行し帰って来てすぐこのカンチの梱包とあわただしく動き廻って、先発を二月二十四日に隊長の尾形好雄(日本ヒマラヤ協会)、吉田秀樹(信州大学山岳会)、今村裕隆(ベルニナ山岳会)、田辺治(名古屋

登り、その先ナイフエッジにモンスターのようなキノコ雪が積み重なり、氷の上にカサカサ状の雪が載っているという非常に不安定な状態が続いている。所々に以前のフィックスロープが見られた。この日は四ビッチ伸して〇へ戻る。

二三日、前日と同じメンバーで出かける。ルートは前日同様モンスタリーのハングを越えたり、下を潜り抜けたりと、多彩に豊んでいる。午後三時頃トップ尾形となり六ビッチ目を伸ばそうとハングしたキノコ雪の下を這うようにトラバースし、体をひねりぎみに立ちあがろうとしたら、足元の雪が崩れてアッパーズム氷河側に転落、しかしスノーリッジガジョックを吸収してくれたおかげで、ケガも無くこたなきを得〇へ帰幕出来た。

翌二四日、名塚、今村、後藤、ロブサンでルート工作するが、尾形パーティ同様苦戦を強いられるこの日二ビッチ、高度的にもビッチ数もこの辺で〇を作りたいが、場所がない。二五日、ロブサンが二ビッチ伸してやっと〇(六三〇〇米)のテントサイトを見つけない〇間三四ビッチ、高度差六〇〇米である。

二七日、〇建設、名塚、今村、ロブサン、サマンラで入る。翌日から〇へのルー工を行ない二九日までの三日間に全て今村トップで九ビッチを伸ばした。中でも二日目は1.5ビッチしか伸ばせず、これで本当にモンスーン前に頂上へ立てるのだろうかかと心配になる。

五月一日に入ってから吉田

田辺、バサン、ケムラジュに交代。バサンは、一日で九ピッチ（六六〇〇米）を伸ばす。この辺まで上つてくるとルートも核心部を脱け、尾根に広がりが見えてくる。翌二日、さらに一〇ピッチ伸ばして六八〇〇米を予定地として、四目に尾形、佐藤、ケムラジュで建設。このサイトは今までのあの険悪なナイフエッジ、今にも落ちてきそう

でも気楽にトイレに行けるという広い場所で、上を見てもそう険悪さは感じない。そして、東側に広がっているシニオルチュ、シンブーが大きく眺められ、遠くにはブータン山々が、北にはノースシッキムの山並、そして彼方に茶褐色のチベット高原が今までルー

C₂~C₃間

ト工作の間には見ていたが、気持ちに余裕が出来、より美しく見えるようになってきた。

五日、尾形バーティは広い尾根を六ピッチ進み、七ピッチ目は斜度六〇度位の氷壁を三〇米登りナイフリッジを脱けて帰幕、翌六日も七ピッチ伸ばして七二五〇米に到達する。が、地点はさらに上で、七日に小田、後藤、シャルマ、サマンラと交代し、六ピッチ半を伸ばして、予定地へのメドを立ててくれた。

九日、Cを建設し、一〇日に名塚今村、小田で、一三ピッチを申しアレートに達した。しかし、Cへ帰ってみると、今日上ってくる筈であった登攀用具（特にフィックロープ）が上っていないくて、やむ無く名塚バーティはCへ下ることになってしまった。その為に翌一日は先端があいてしまった。今ではもう今月の下旬には来るであろうモンスーンとの競走で、一日最先端があいてしまうのは大きい。

名塚バーティに代って吉田、田辺、ロブサン、チョルデンがCへ入る。

一二日、吉田バーティは六ピッチ伸してアレートを突破、北東支稜から北稜へと続、雪壁が見える所まで行った。翌日二ピッチを伸ばす。この頃になるとルートがやさしくなったせいもあるが下からの荷上げが間に合わない為に、この日のように二ピッチしか伸ばせない日が出るようになってしまう時があった。またこの日は下のC-C間、クレバスのスノーブリッジが崩壊しルートが寸断されてしまっ

たが、かろうじて他のスノーブリッジが見つけられたのでフィックスロープを張りなおして事無きを得た。

一四日、この日はインド側、パサン、ロブサン、サルキ、ケムラジュだけとなり、吉田パーティより三ピッチ伸びてジャンクションピークを廻り込み、北東支稜の最後の広いコルに出る。ここはフィックスを張らずに三ピッチ進み雪壁を二ピッチルートを伸べてC₆（七八五〇米）予定に到達した。

一五日に同じメンバーでC₆を建設、一六日にC₆から三〇〇米の雪壁を登ってC₇建設から三一日ぶりに北東支稜を登りきり北稜へ飛び出た。この日、過去のインド陸軍隊のルートを追って、ファイナル・キャンパ地進行ってC₆へ戻った。

一七日、C₆の四人は四時に出発。パサン、ロブサンが先行し、サルキ、ケムラジュがサポートというかたちで行動している。C₆というファイナル・キャンパを作るというのに四人は前日に到達した。インド陸軍隊のファイナル・キャンパの上の大岩の基部へテントなどの幕営用具をデポし、各自酸素ボンベ一本を持って登行を続けた。上部のクローワールに三本のフィックスロープを張り、ダイレクトに頂上に向っている北稜をルートとして選び進んでいた。しかし頂上直下はリッジからフェースとなり、とても登れそうにない。そして、一四時三〇分、トッパで行っていたパサン・シェルバ（二六才）が岩場をスリッパして北壁側へ転落

して行方不明となっていました。この事故をCが聞いた時に「何で？」としか言えなかった。今日Cを作るのではなかったのか！真相は定かではないが、フカム・シン隊長は十時の交信でCを作るように指示を出していると言うがCが建設するのに何故四時に出発するのか、当然前日の交信でフカム・シン隊長もCの彼らが四時に出発するのは承知していただろうし、また、I T B P という準軍隊の上官の命令が無視されてしまったのか、一つ思えるのは登っている彼らにはCから北稜に出て、そこから見えるカンチエンジュンガの頂上があるにも近くに見えたのではないだろうか。

このアクシデントで、日本側のアタック・スケジュールが目茶苦茶になってしまった。五月二〇日を第一次とし各キャンプにメンバを配置し終えたところである。

この日、尾形隊長はフカム・シン隊長よりBCへ下ってくれと言われ翌日、「何故だ！」の自問を繰り返しながらくやくしさをかみしめながらBCへ下っていった。この日全がキャンプ。パサンの喪に服する為に停滞した。

BCの話も含めて登山は続行ということになったのだが、パサンの事故により、彼の仲間であるタージリンの高所ポーターが上部より引き上げてしまい、荷上げに大きな支障が出て来てしまった。

二〇日、名塚、今村、小田、後藤でC₁・C₂の荷上げを行なう。

二二日、吉田、田辺、新郷、星

本社 群馬県沼田市下之町880番地 TEL 0278(23)4648(代表)
支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-985-7631

平成三年度総会報告

日時 平成三年六月二十三日(日)
十四時三十分

会場 群馬県婦人会館
出席 星野光、中島喜代志、小林
三雄、石井謙一郎、田中
成幸、樋口宗平、大田忠行
富山真、笠原伊勢雄、羽野
順一、川辺柳一、堀江登志
夫、北村澄男、須田栄一、
竹山繁男、松田龍彦、八木
原園明、西山千秋、松永幸
雄、水野金太郎、高田政美
大沢清、岡安茂能、田中壯
信、長谷川勇、森田富美男
中嶋登良次、新井邦光、大
岳正男、名塚秀二、佐藤光
由、佐藤緑、阿部源一、寺内
正明、松本博、小泉俊夫、
小此木次雄、町田幸男、小
暮寛、阿部健二、木村文江
土屋邦夫、小野正純、吉田
茂作、女屋等志、千明政彦
出席団体

伊勢崎山岳会、沖電気高崎
工場山岳部、太田山岳会、
大間々山岳会、桐生山岳会
群馬中高山山岳会、群馬登
高会、群馬独峰会、群馬ミ
ヤマ山岳会、群馬むすびの
会、群馬県高体連登山部、
境町山の会、高崎山岳会、
中之条山の会、沼田山岳会
富士重工工業山岳部、鶴翔山
岳会上越支部、前橋山岳会
松井田山岳会、前高OB会
水上山岳会

会長あいさつ
総会の冒頭で星野会長より挨拶
があり、七月に予定されている五
十周年式典及び記念誌の発行に向
けて岳連の力を結集して無事に成
功するための協力をお願いしたい。
また記念事業の一つとして海外登
山計画がありますが、目的はサガ
ルマータク南西壁です。これにつ
いても資金面でスポンジ新聞社がバ
ックアップすることになっていま
すが最初の計画とは少々異なっ
てきているので今後資金集めをどう
していくかが問題となる。いづれ
にしても是非皆様方の御協力をお
願ひしたい。

会長あいさつその後議案審議に入
り平成二年度事業報告、及び収支
決算報告、監査報告、平成三年度
事業計画案及び予算案についてす
べて満場一致で承認された。

その他のものでは冬期サガルマ
タ南西壁計画が八木原理事より報
告され、特に資金調達について協
議が行なわれた。その他に記念
誌発行資金についても話し合いを
行ない群馬の山から資金を二〇
〇万円ほどこれにあてることに決
まった。また吉田観光課長より七
月二十四日二十五日に草津で行こ
なわれる第三十三回自然公園大会
に野外活動に対しての支援を県岳
連にお願いしたいと要請がありま
した。

尚当日中曽根弘文岳連顧問が出
席され、総会前に行なわれた理
事会で挨拶をしていただき総会に
は出席出来ませんでした。が会員の
皆様によりしくとのことでした。

山行記録 コーナー

総会終了後恒例となっている懇
親会がスワンで開かれました。
記 羽野

冬山初体験(ハケ岳)

期日 平成三年一月十日・十一日
パーティー 大山洋次、亀井ひろ子
冬山一年生の私は岩と雪のハケ
岳へ行ってきました。メンバー五
名、美濃戸から二パーティーに分
かれる。美濃戸から入山した私達
二名は行者小屋を目指して登山開
始する。途中急斜面三四米の所
で早くも悪戦苦闘が始まった。太
山さんのステップの後を行くだけ
なのにどうしてノーステップを崩
したり、作り直したり、無駄が多
く、そこで体力をかなり消耗して
しまった。「なぜ、なぜ」と自分
がなげなげなげなげなげなげな
びッセルを使用する。ここは何と
かやと登った。それから少しづ
つづつなってきた。それでも自
分の胸に頂上、頂上へ行くんだと、
何回も言い聞かせて頑張る。少し
気持を持ち直して又、登る。

登り初めて一時間三十分位たっ
た時、少し前から雪がチラ／＼し
ていたが、あつ、と言つ間に吹雪に
変わってしまった。大山さんから
「丁度、千米位の所だよ」と言わ

れ、もうそんなに登ったのか、そ
れからつらさは増すばかりだつた。
初体験、いよいよもつとつらくな
ってきた。登って行くのにザッ
クが重く感じはじめ、ベースタウ
ン、そして鼻水はたれる、手袋は
ぬれ、手も冷たくなってくる。風
に吹かれてステップを踏み外し、
ズボ／＼と足がうずまる。それが
何回となく続く、辛い長い道のり
であった。もう少し、もう少しで
小屋へ着くからね、その声はやさ
しかった。ところがもう少しのは
ずが、行けども、行けども長がく
続いているんだもの。私は、やっ
つと、の思いで小屋へたどり着いた。
テント生活が一晩やれる。設テ
ント開始、手伝いをする気持はあ
けれど、何もかも解らない、気が
付くとテントが張れ、中に入る。
一休み、やつと安心出来る。食事
をして、あたかものものを飲み、
明日のために眠る。

翌朝は朝食をすませ、いよいよ
赤岳へ向う。体が高度に馴れたの
か、体が楽に感じる。アイゼン
は途中からでいいよと言われ、不
安でたまらない、私のまわりでアイ
ゼンを付けて登り出している人々
がいる。しかし夢中で後を付いて
行く、樹林帯を抜け正面に赤岳の
西壁が厳しい表情を見せ始める。
アイゼン装着、赤岳山頂直下を行
く。ついに頂上、やつた／＼思わ
ず声を出し、両手を上げる。この
とき、まわりの人達は一瞬私の中
に存在なし。

展望は三六〇度、さつきまでい
かめしかった阿弥陀岳も見下す高
さになっていて、見渡す限り山又
山で富士山までも見ることが出来
た。ふと頭のどこかを冬の富士山
へ行きたい……と、大それたもの
がさめる。

頂上で昼食を済ませ展望を満
喫した後下山にかかる。地蔵尾根
の上部は雪壁と岩場の通り抜けて
緊張が続いた。うっ／＼とした樹
林帯を抜けると小屋の裏手に出た。
ビールとジュースで乾杯をする、
美味しい。

岳連参与会員(順不同)

平成三年二月十四日現在

比護澄雄	伊勢崎山岳会
荻野 弘	大間々山岳会
今泉栄一郎	"
布施正昭	高体連登山部
小林次郎	群馬登高会
田中成幸	"
五十嵐一夫	境町山の会
洪沢真一	"
石井謙一郎	伊勢崎山岳会
中原正喜	ミヤマ山岳会
加藤藤夫	富士重工工業山岳部
太田忠行	群馬独峰会
月岡武久	群馬星稜山岳会

山行記録の募集

別コースの三人と合流し、美濃
戸をめざし下山する、無事下山完
了。こうして私の素晴らしい冬山
登山(体験)は終わりました。

コースタイム
〇二月一日
美濃戸発八時
行者小屋着十二時四〇分
〇二月十一日
行者小屋発七時
文三郎道・赤岳山頂着九時十分
赤岳山頂発一〇時
地蔵尾根・行者小屋着一〇時四
十五分
行者小屋発十二時
美濃戸着十五時
記 境町山の会 亀井ひろ子

県岳連加盟の各山岳会会員の皆
さんの山行記録を岳連機関紙「嶺
呂」に掲載して県内はもとより、
他県の人達に対しても、知らせて
行こうという考えから、「山行記
録コーナー」を作ってみました。
山行記録内容については特に決
められた規定はありません。例え
ば会山行でも、個人山行でも、岳
連会員外の人達との同行山行でも
いっ／＼にかまいません。山行地
も国内、海外、ハイキング的な山
から高度な山行まで何でも結構で
す。山行記録については次の内容
を必ず明記して下さい。

一、山名、ルート、コース。
二、登山年月日、所属山岳会名。
三、メンバー氏名、登山内容。
四、ルート図、写真。
〇 送り先、編集部 羽野まで

美と健康のお手伝い

ブリジストン自転車
ナショナル自転車
ホンダのオートバイ
サイクルショップ

ヤギル

前橋市下細井町139-3
TEL 0272-31-1308

有限会社 山とスキーの店
石 井

伊勢崎市中央町18-8